

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>○県の学習状況調査結果は厳しいものであった。調査結果の分析と日常の授業での気付きをもとに、知識・技能の着実な定着と主体的な学びを育む指導法改善に向けて、校内研究会を中心に取り組みを進めていく。また、家庭でのインターネットの使用時間が長かったり、夜遅くまで使用している子どももおり、自宅学習や学校での学習に集中できない状況も見られる。保護者と連携して、適切な使用と生活習慣や学習習慣の定着を図っていく。</p> <p>○学校での生活と学習の基盤となる落ち着いた、誰もが安心できる学級づくりに向けて、生徒指導・教育相談・特別支援教育の充実に努めていく。</p> <p>○学校教育の充実に、教職員が心身共に健康で子ども達と向き合うことが必要である。そのために、業務の効率化や簡素化等から働き方改革を推進していく。</p>
2 学校教育目標	<p>夢と志をもち、自ら学び、共によりよく生きようとする砥川っ子の育成 ～「勤儉力行」の砥川魂を受け継ごう～</p>
3 本年度の重点目標	<p>「一心一徳」「異体同心」で☐魅力的で笑顔に満ちた児童を育てる ○魅力的で活気に満ちた教師になる ○魅力的で家庭や地域に愛される学校になる</p>

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師75%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。						
	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「ゴール像が明確で、めあて、まとめ、振り返りができていると思う」と回答した児童75%以上	・めあてとまとめ、振り返りの授業を徹底し、児童による授業評価を学期に1回実施する。						
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○思いやりのある行動や言動ができていてと答える児童が80%以上	・人権教育に関する講話や集会を定期的実施し、自分の行動や言動について考えさせる機会をもつことで啓蒙を図る。						
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○アンケートにおいて、学校が安全で楽しいと答えた児童が80%以上	・心のアンケートを定期的にとり、気になる児童への観察と言葉かけを行って、いじめの早期発見、早期対応に努める。 ・SCとの面談の働きかけを行う。						
●健康・体づくり	③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「健康に食事は大切である」と考える児童100%の継続 ・朝食摂取率86%以上 ・「まごわやさしい」認知度50%以上	・朝食摂取率の上昇と望ましい朝食への変化に向けて、朝食実態調査を6月と11月に行い、集会及び家庭科や学級活動等で栄養教諭とTTで取り組む。家庭と連携して効果を上げるために学級通信や広報で啓蒙を図る。給食で「まごわやさしい」献立を実施する。						
	④「安全に関する資質・能力の育成」	○児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・交通事故防止の児童への講話等を年2回行う。						
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○長期休業中の時間外勤務は30時間を超える職員を0%にする。	・毎週金曜日を定時退勤日を設定し、実行を促す。 ・毎月業務記録を把握し、職員が共有することで、業務改善への意識の向上を図る。 ・行事や会議を削減・凝縮し、業務の効率化に取り組む。 ・家庭や地域に対し、教員が本務に専念できる環境作りへの協力・連携を依頼する。						

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育の充実と拡散	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員80%以上	・個別の指導計画及び特別な教育課程の詳細な立案。 ・全職員で児童の情報共有と指導の方向性の確認を行う。 ・7月末に職員研修を実施し、インクルーシブ教育の視点で通常学級の個別の支援を学ぶ機会を設ける。						
○地域連携による共育	◎児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)70%以上	・地域連携室との連携により、児童が生き生きと学習できる環境を構築する。 ・児童が地域の方に感謝する機会を設ける。 ・キャリアパスポートに自己目標の設定と振り返りを行わせ、他己評価も活用して意欲を高めていく。						

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>
--------------------	----------------------------